

新しい学習指導方法

1. 新しい学習指導方法の実施状況

【新しい学習指導方法の実施状況をみると、「K. 自作プリントを用いての学習」「I. 個別学習」といった新しい指導方法の中ではどちらかというすでに新しくはない指導方法に属する学習方法が、比較的多く用いられ

ている。しかし、生徒が自分でテーマを選ぶ「A. テーマ学習」はまだまだ少ない値になっている。さらに、中学の授業が体験学習的に行われることはまだ多くないし、それが学校外で行われるのはもっと少ない。】

Q6. あなたは、次のような方法を用いた授業を行っていますか。A～Kのそれぞれについて、当てはまる番号に○をつけてください。

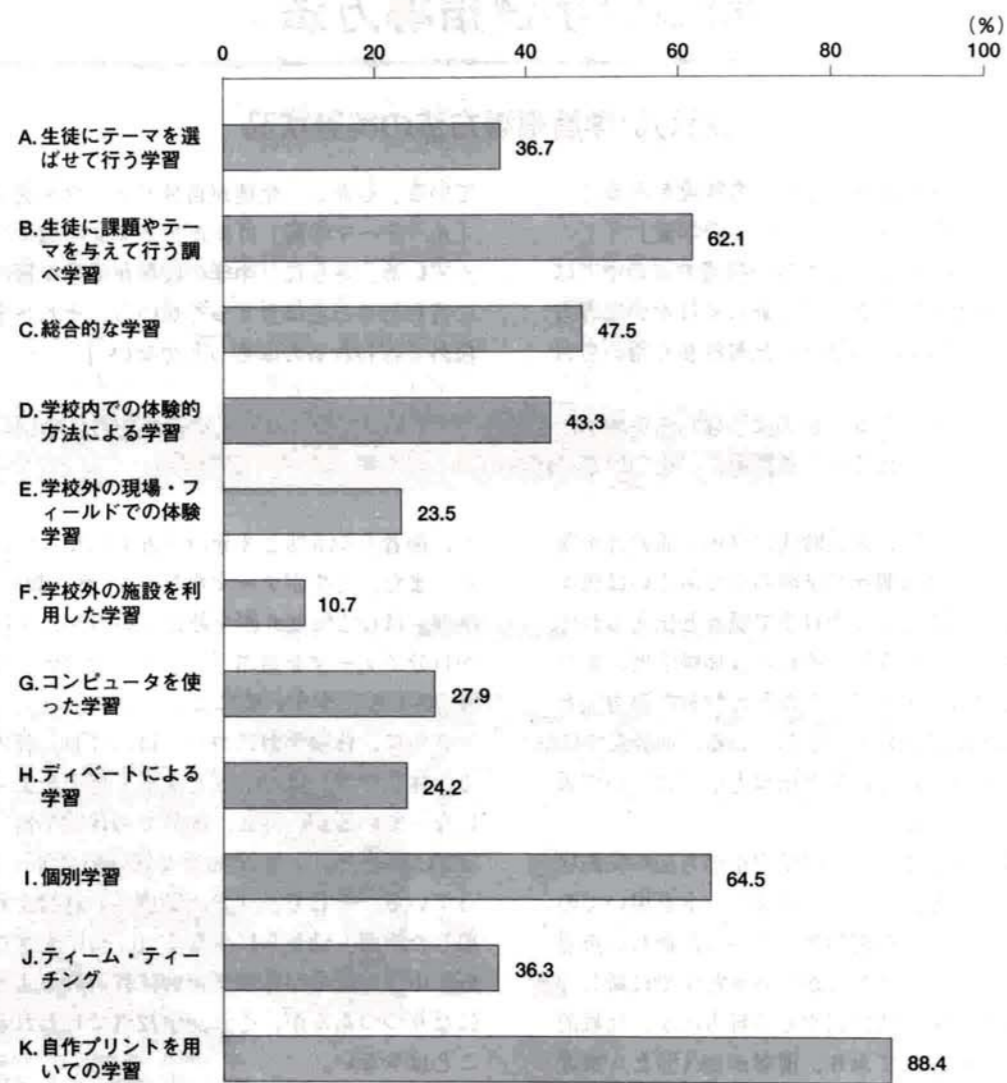
わが国では、大正時代に自由主義教育が開花し、それは個々の学園の中であるいは様々な教授方法として今日まで脈々と伝えられてきた。そして今日、それらは体験学習、総合的な学習、ディベートなどの学習指導方法として再び開花しようとしている。本調査では、そうした“新しい学習指導方法”について調査している。

図2-7で、新しい学習指導方法の実施状況をみると、「K. 自作プリントを用いての学習」「I. 個別学習」といった新しい指導方法の中ではどちらかというすでに新しくはない指導方法に属する学習方法が、比較的多く用いられており、前者が88.4%と9割近

く、後者も64.5%と3分の2近くになっている。また、先生がテーマを与える「B. 調べ学習」は62.1%と6割を超えているが、生徒が自分でテーマを選ぶ「A. テーマ学習」は36.7%とまだ少ない値になっている。

さらに、体験学習については、「D. 校内での体験学習」は43.3%と4割を超えるまでになっているが、「E. 校外での体験学習」は23.5%とそれより20%近く低い値にとどまっている。そして、「F. 学校外の施設を利用した学習」はさらに少なく10.7%にすぎない。中学の授業が体験学習的に行われるようになりつつあるが、それが学校外で行われることは少ない。

図2-7 新しい学習指導方法の実施状況



注) サンプル数は1368人。

2. 担当教科・学年と新しい指導方法

【担当教科ごとに新しい学習指導方法の実施状況が顕著に異なっている。国語はディベートによる学習が群を抜いて他教科よりも多く、社会はテーマ学習、調べ学習など生徒の主体的・創造的な学習や、学校外での学習を取り入れる傾向にある。数学は、新しい指導方法をあまり取り入れていない。ただし、数学の特性を利用して、コンピュータを使った学習

と個別学習はもっとも採用割合が高くなっている。理科は、体験学習が多く取り入れられている。外国語は、数学の場合と同じように、新しい指導方法をあまり取り入れていない。ただし、チーム・ティーチングは91.2%と非常に高い割合となっている。また、主たる担当学年ごとに、採用率に差がある指導方法がある。】

Q6. あなたは、次のような方法を用いた授業を行っていますか。A~Kのそれぞれについて、当てはまる番号に○をつけてください。

表2-7は、担当教科別にみた新しい学習指導方法の実施状況をみたものである。この表で、担当教科ごとに新しい学習指導方法の実施状況が顕著に異なっている。

国語は新しい指導方法の採用状況に特徴がある。「H. ディベートによる学習」が59.4%と群を抜いて他教科よりも多いほか、「B. 調べ学習」が78.7%、「I. 個別学習」が72.1%と他教科よりも多くなっている。反対に「G. コンピュータを使った学習」は11.7%、「チーム・ティーチング」も12.2%と少なくなっている。これらは国語には利用されにくい指導方法となっている。

社会では、「A. テーマ学習」が53.8%、「B. 調べ学習」も79.3%、そして「E. 校外での体験学習」も24.9%と多くなっている。また、「F. 校外施設利用の学習」も16.0%である。社会では、テーマ学習、調べ学習など生徒の主体的・創造的な学習や、学校外での学習を取り入れる傾向にあるようだ。

数学は、新しい指導方法をあまり取り入れていない。「A. テーマ学習」は10.7%、「B. 調べ学習」が39.0%、「C. 総合的な学習」が35.8%、「E. 校外での体験学習」が5.9%、そして「F. 校外施設利用の学習」が2.1%と、なんと5つの指導方法で採用割合がもっとも低くなっている。この他「D. 校内で

の体験学習」が26.7%、「H. ディベートによる学習」も15.0%と非常に低い値になっている。ただし、数学の特性を利用して、「G. コンピュータを使った学習」が50.3%、「I. 個別学習」も73.3%と、この2つの指導方法ではもっとも採用の割合が高くなっている。

理科では、体験学習が多く取り入れられており、「D. 校内での体験学習」が60.9%、「E. 校外での体験学習」が45.3%と他教科よりも高くなっている。また、「F. 校外施設利用の学習」も10.9%と高くなっている。

外国語は、数学の場合と同じように、新しい指導方法をあまり取り入れていない。そして数学の場合と異なり、「G. コンピュータを使った学習」の採用の割合も9.3%と低い。ただし、「J. チーム・ティーチング」だけは91.2%と非常に高い割合となっている。また、「C. 総合的な学習」も51.3%と高い値となっている。

その他の科目では、「D. 校内での体験学習」が65.5%、「E. 校外での体験学習」が31.3%と多く行われており、体験学習的手法による学習指導が広がっている。また、「F. 校外施設利用の学習」の割合も17.1%と高くなっている。

担当学年別に新しい学習指導方法をみると(図2-8)、主たる担当学年ごとに、採用

率に差がある指導方法があった。「E. 校外での体験学習」が26.7%、「F. 校外施設利用の学習」が12.2%と校外に出かけるタイプの新しい指導方法は、3年生でもっとも多い。「G. コンピュータを使った学習」は、1年生を主として担当している先生で21.2%と

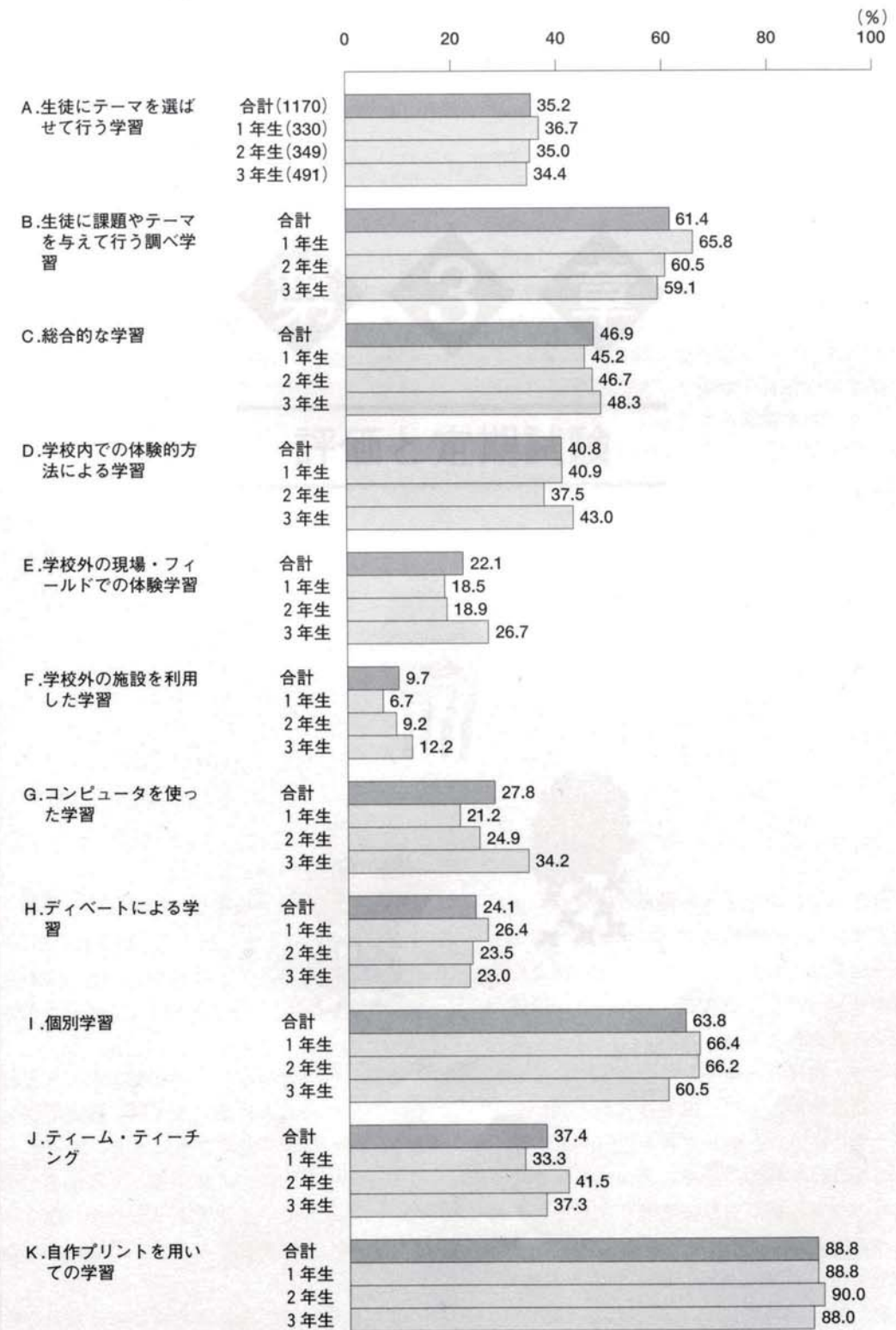
もっとも少なく、3年生を担当している先生で34.2%ともっとも多くなる。「J. ティーム・ティーチング」は、2年生を主として担当している先生が41.5%ともっとも多くなっている。

表2-7 新しい学習指導方法の実施状況(教科別)

	国語 (197)	社会 (169)	数学 (187)	理科 (192)	外国語 (193)	その他 (316)	全体 (1368)
A.生徒にテーマを選ばせて行う学習	43.7	53.8	10.7	38.0	20.7	45.6	36.7
B.生徒に課題やテーマを与えて行う調べ学習	78.7	79.3	39.0	60.9	42.5	66.8	62.1
C.総合的な学習	45.7	43.8	35.8	39.6	51.3	58.5	47.5
D.学校内での体験的方法による学習	26.9	26.0	26.7	60.9	31.1	65.5	43.3
E.学校外の現場・フィールドでの体験学習	15.7	24.9	5.9	45.3	6.2	31.3	23.5
F.学校外の施設を利用した学習	7.1	16.0	2.1	10.9	3.1	17.1	10.7
G.コンピュータを使った学習	11.7	21.3	50.3	48.4	9.3	25.6	27.9
H.ディベートによる学習	59.4	36.1	15.0	15.6	6.7	14.2	24.2
I.個別学習	72.1	50.9	73.3	54.7	66.8	66.1	64.5
J.ティーム・ティーチング	12.2	14.8	54.0	24.5	91.2	29.7	36.3
K.自作プリントを用いての学習	95.4	89.9	87.7	88.5	91.2	82.0	88.4

注) ()内はサンプル数。

図2-8 新しい学習指導方法の実施状況(学年別)



注) ()内はサンプル数。